

---

# リリカルボールA`s

えるにとり

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

リリカルボールA、S

### 【Nコード】

N2763BA

### 【作者名】

えるにとり

### 【あらすじ】

ミッドチルダの”黒い星”と呼ばれる最強の少年がいた。しかし、戦の途中で次元の裂け目に吸い込まれてしまいどこかへ飛ばされてしまった。気が付くと、そこは地球の海鳴市という場所だった。そこで、少年は一人の足の不自由な少女と出会った。そこからすべての物語が始まってゆく……

主人公はオリジナルですが、一応ドラゴンボールとリリカルなのはのクロスオーバーとを考えてください。

## プロローグ（前書き）

初めまして

小説書くのは初めてです

改行とか描写とかおかしいかもしれないかもしれませんが、  
よろしく願います。

## プロローグ

どこかの遠い次元で壮絶な戦いが繰り広げられていた。

「ふ、その程度か・・・今安らかに眠らせてやる・・・。」

そいふとその黒い何かは、手を上げ赤いエネルギーボールを作り出し、  
今にも倒れそうな少年を狙っていた。

「（くそ、なんて強さなんや・・・超サイヤ人2でもせんぜんかなわれないなんて・・・あいつがおつたらフュージョンで倒せるんやけどな・・・。）」

その少年は、左腕を折られて、口からは血を流していた。  
さらに気も魔力も底をつき、バリアジャケットもボロボロという絶体絶命の状態だった。

「さらばだ!!!」

そいつうとその黒い何かは赤いエネルギーボールを少年に投げつけた。

「く、俺の人生もここまでか・・・短かったなあ・・・」

とそのとき、少年の足元に次元の裂け目が現れた。

「え・・・ちょ・・・え!あああああ!!!」

そしてその次元の裂け目は、傷ついた少年をのみこんでいった。

ドカーーン!!!!!!!!!!!!!!

「ふん、まあ多少暇はつぶせたらう。」

そういうと黒いなにかはどこかへ飛んでいった。

この黒い何かは、あの一撃で少年が死んだと思っていたのだ。  
次元の裂け目に少年がのみ込まれたことを知らずに……

ここからすべての物語は始まった……

## プロローグ（後書き）

感想、指摘お願いします!!

## 始まり、出会い

ここは海鳴市にある病院。

あの戦いで傷を負った少年が運び込まれた病院である。

「うぐ……」

「お、氣いついたんか!」

少年が目を覚ますとそこには一人の少女の姿があった。

「ここは……何処何や?」

「ここは病院やで。しかしあんな傷だらけでどないしたん?」

すると病院の先生が来て、こう言った。

「はやてちゃんが傷だらけのあなたをみつけて救急車を呼んでくれたのよ。ちゃんと感謝しなさいね。」

どつちらの少女の名前は”はやて”という名前らしい。

「そうやったんか・・・ありがとな。」

「ええよ、当たり前のことしただけやし。あ、話戻すけどなんであんな傷だらけやったん？」

「それは・・・。」

詰まる少年。

それもそうだろう。

あの戦いのことを話しても信じてもらえるはずもないのだから。

「ちよつと、実験に失敗してな・・・。」

うそをつく少年

あっさり信じるはやて。

「ふ〜ん。どんな実験か気になるけどまあその話はあとででええかな。」

なんとかその場をやり過ごせた。  
すると先生がこう言った。

「それにしても君ほんとにすごいわね。出欠多量、複雑骨折、そのたもろもろでいつ死んでもおかしくない状態だったのに、たった半



日で退院するまで完治するなんて信じられないわ!」

先生はとても驚いていたようだ。

しかし、サイヤ人の血が流れている少年にとってはこれが普通なのであった。

するとはやてがこう訊ねてきた。

「・・・まあその話はさて置き、君の名前を教えてくださいへん?」  
「うちは”八神はやて”。」

「”石井ナオ”や・・・」

「ナオ君か・・・まあよろしく!」

「別に呼び捨てでええよ、命の恩人やしな。あと何か礼もせなあかな!」

「礼なんてええよええよ、そんな気いつかわんでも。」

「でも何か恩返しせな俺の気がなあ・・・」

するとはやてがこう言った。

「なら・・・家に来ません？うちずっと一人で寂しかったからしゃべり相手がほしかったん・・・」

一瞬ナオはっへ？って顔になったが、

「そんなんで良ければ。」

「なら決まりやね！今から帰りましょ。」

そして石井ナオの八神家での生活が始まったのであった・・・

## 始まり、出会い（後書き）

描写とか改行とかまだまだ未熟なんで  
感想、指摘よろしくっす！！

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2763ba/>

---

リリカルボールA`s

2012年1月9日03時49分発行